

令和元年簡易生命表について

令和元年簡易生命表は、日本にいる日本人について、昨年1年間の死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や、平均してあと何年生きられるかという期待値などを、死亡率や平均余命などの指標（生命関数）によって表したものである。

これらの生命関数は、男女別に各年齢の人口と死亡数によって計算されるため、その値は現実の我が国の年齢構成には左右されず、死亡状況のみを表している。したがって、日本の死亡状況を厳密に分析する上で不可欠なものとなっている。また、0歳の平均余命である「平均寿命」は、全ての年齢の死亡状況を集約したものであり、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。

なお、日本の生命表として、厚生労働省では、「完全生命表」と「簡易生命表」の2種類を作成・公表しており、「簡易生命表」は、人口推計による人口や人口動態統計月報年計（概数）による死亡数、出生数を基に毎年作成している。また、「完全生命表」は、国勢調査による人口（確定数）や人口動態統計（確定数）による死亡数、出生数を基に5年ごとに作成している。これらの生命表は、特に重要な統計として、統計法に基づき基幹統計に指定されている。

<利用上の注意>

(1) 表章記号の規約

減少数（率）の場合	△
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…

(2) 掲載の数値は四捨五入の関係で、引き算の結果が「差」に、内訳の合計が「計」又は「再掲」に合わない場合がある。